

## 例会報告

『紙飛行機の日』制定記念折り紙ヒコーキイベント第2回「たけし杯」

佐賀市 (2023.5.6)

5月の例会は、担当者の身勝手であったが、日本トップクラスの指導者が来佐されるという折り紙ヒコーキ大会を活動内容にさせていただいた。滞空時間競技 29.2 秒の世界ギネス記録を持つ戸田拓夫氏、距離競技 61.82m の日本最高記録を持つ藤原氏、日本に数人しかいない最高の折り紙ヒコーキの魅力を伝えることのできる主任指導員の山浦氏と津田氏の2名がやってくるのだ。たかが折り紙ヒコーキと侮るなかれ、やはり、何でも一番はすごい！それを少年団の子ども達に体感して欲しかった。

1週間前から大雨が予想されたお天気、今回は予報が当たってしまい大雨。紙を折っていく折り紙ヒコーキには最悪のコンディションだった。それでも神野小学校体育館には100名以上の人が集まった。ここ3年ほどコロナ禍でイベントができなかったため、遠くは香川県、熊本県、長崎県などからも折り紙ヒコーキマニアが駆け付けた。教える側の指導者も久しぶりの公式大会に胸を躍らせた。午前中の「折り方教室」では、JAL 日本航空の現役パイロットの山浦機長、同じく JAL の津田さん、伊藤さんがユーモアたっぷりに参加者にわかりやすく指導され、老若男女が童心に返り楽しんだ。午後は滞空時間の公式大会だ。その日渡された認定用紙を使って自分で折ったヒコーキで競技に挑む。2回の投てきが可能で、タイムの良かった方が自己タイムとなる。優勝は、子どもの部が5.00秒、大人の部が14.41秒だった。湿度が高い中での14秒台は驚きだ。入賞者には賞状だけでなく、金銀銅のメダルと大きなジュピター（スペースシャトル型の立体ヒコーキ）、戸田氏の最新版折り紙ヒコーキの本などが贈られた。

小さな子ども対象の豪華賞品付き JAL 的入れゲームや全員が参加できる的狙いアトラクションなどもあって、終日楽しめるイベントとなった。ラストを飾るのは日本一遠くへ飛ばす藤原氏のデモンストレーション。体育館の端から投げた折り紙ヒコーキが向かい側の壁に突き刺さるほどの勢いで飛ぶ姿を全員が見入っていた。やはり実物を直接体験することは意義あることだと痛感した。少年団参加者約25名（文責：井上英史）





分かりやすい折り方説明



教えているのは現役の機長さん



かたをきちんとつけて・・・



折るすき間を少し取った方がいいよ



お父さんも頑張っています



飛ばす準備はできたかな



一斉にテイクオフ！



競技会の様子